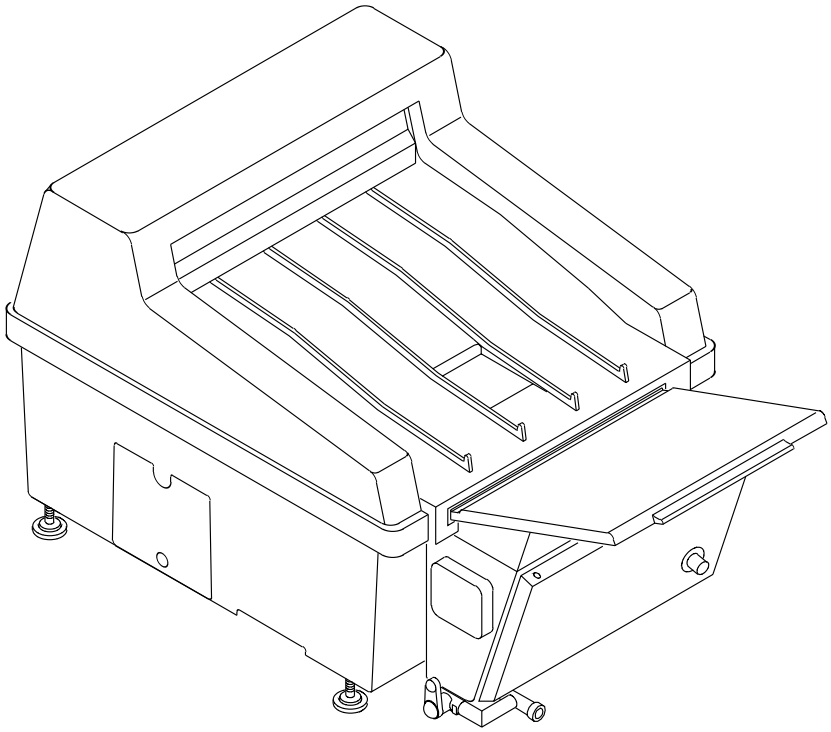
出版番号 **9B8942_JP**
2002 年 **9** 月
改訂 **1997** 年 **11** 月

KODAK X-OMAT 1000、1000A、1000J プロセッサー
オペレーション マニュアル



H164_0007HC

ヘルス イメージ

© Eastman Kodak Company, 2002

注記：

ここに含まれる情報は、出版前に Eastman Kodak Company が入手した製品に関する経験と知識に基づいたものです。

この情報による特許は申請されていません。

Eastman Kodak Company は事前告知なくこの情報を変更する権利を有し、この情報に関しての明示あるいは暗黙の保証もいたしません。Kodak は、たとえそれが Kodak の過失やその他の誤りによるものであっても、この情報を使用したことに起因する結果的あるいは偶発的な損失を含む、いかなる損失や損害に対する責任を負いません。

警告

危険な事故を防止するため、フロア、KODAK X-OMAT プロセッサー周辺のフロアカバー、関連する排水設備は常に清潔で乾燥した状態に保つ必要があります。攪拌タンクや排水パイプなどに液体が溜まっているときはすぐに取り除きます。もし、プロセッサー周辺の排水パイプで、溜まった液体が逆流または液漏れを起こすなどの故障を起こした場合は、すぐにプロセッサーの電源を切り、配管工事請負者またはその他の適切な工事請負者に連絡して、排水設備を修理します。Kodak では、KODAK X-OMAT プロセッサーに接続されている排水パイプとそれに関連するその他の排水設備に対しての責任とサービスの義務を一切負いません。排水設備に関する責任はすべてお客様に一任しています。

KODAK X-OMAT プロセッサーは、患者にレントゲン放射する場所から 1.5 メートル (5 フィート) 以上離れた場所に設置します。

DIN 1988 パート 4、水道水補充システム：KODAK X-OMAT 1000、1000A、1000J プロセッサーには、フリーアウトレット (DIN Part 4.2.1) 給水機能があります。アウトレット内部の直径は 5 ミリメートルで、アウトレットの終端と溶液の満水レベルとの間のクリアランスは 34 ミリメートルです。

目次

説明	ページ番号
概要	3
製品の説明	3
プロセッサーの各部品の説明	3
操作説明	7
スタートアップ	7
フィルムの挿入方法	8
プロセッサーのシャットダウン	9
薬品交換時のタンクからの液体の抜き取りと洗浄、および 1 週間以上プロセッサーを保管する方法	10
補充希釈溶液	13
デベロッパーとフィクサー補充液の攪拌	13
プロセッサーのタンクの補充	13
事故防止保守	15
日々の保守	15
週ごとの保守	15
月ごとの保守	15
トラブルシュート	16
品質保証 (米国のみ)	19

第 1 節: 概要

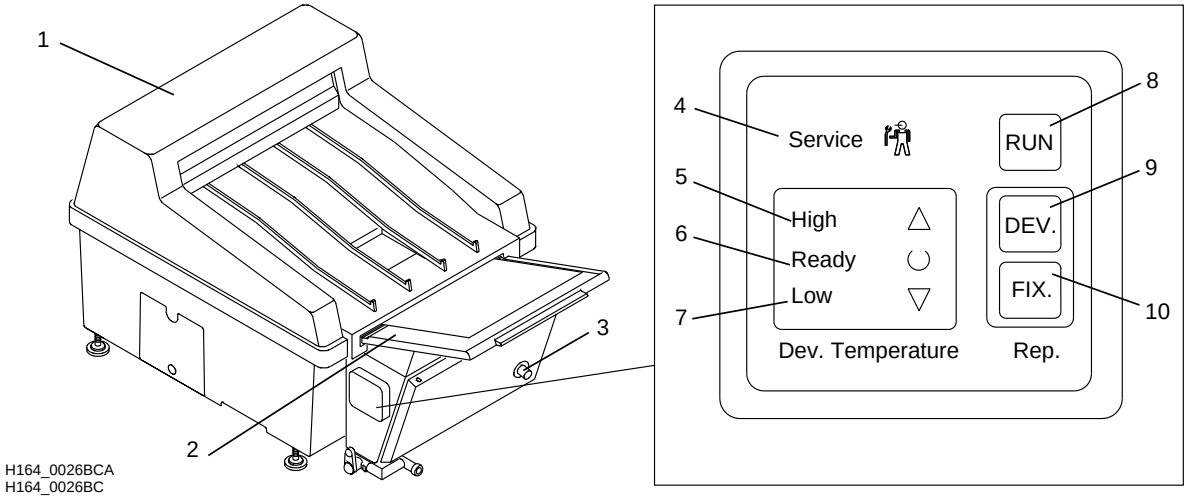
製品の説明

モデル	電気設備の必要条件
1000 プロセッサー	220/230/240 V AC、50/60 Hz
1000J プロセッサー	100 V AC、50/60 Hz
1000A プロセッサー	120 V AC、50/60 Hz

KODAK X-OMAT 1000、1000A、1000J プロセッサーは、容易な設定と保守、高い信頼性、最高の画質を提供する、全自動型卓上レントゲン フィルム プロセッサーです。

プロセッサーの各部品の説明

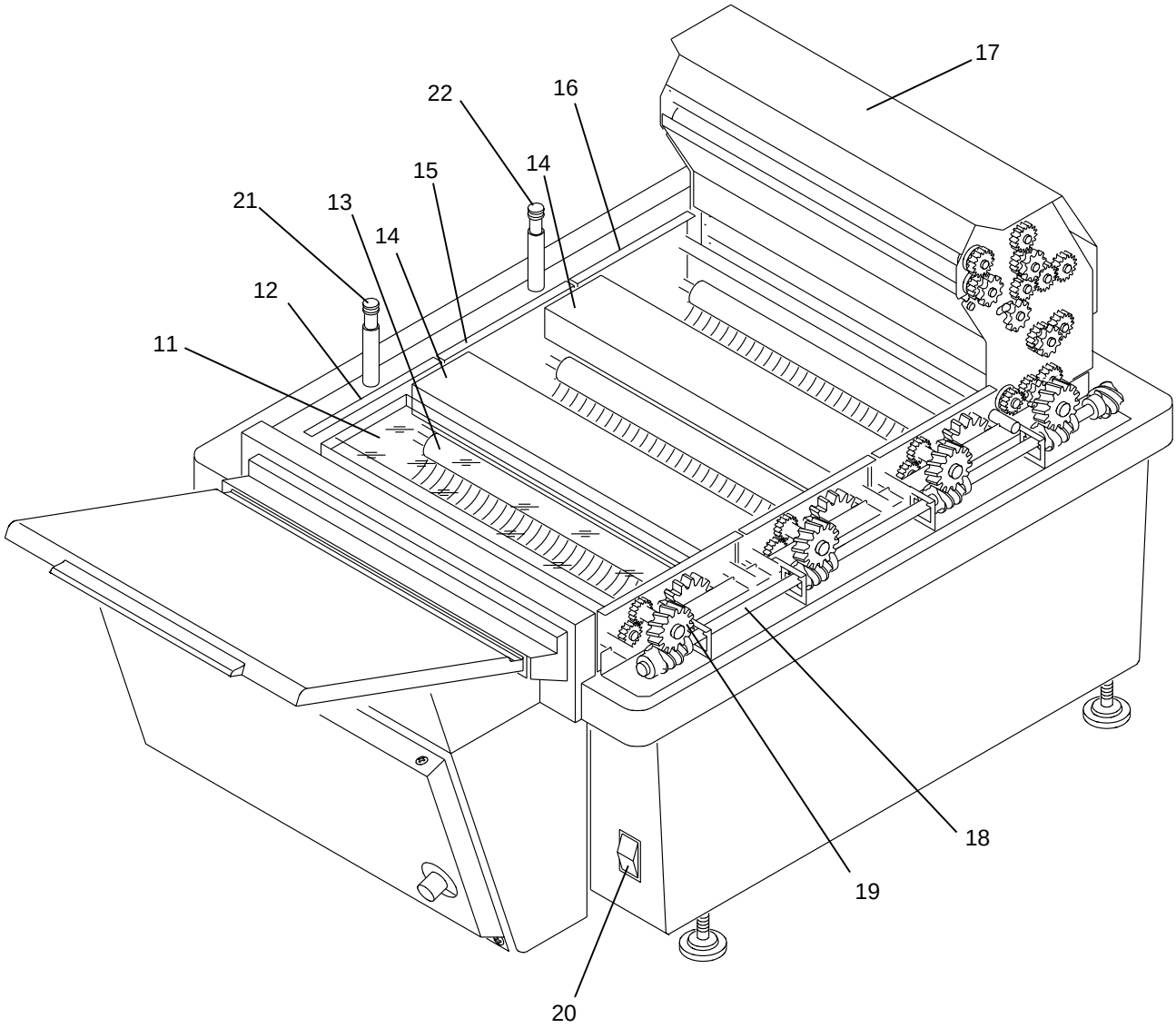
プロセッサーとオペレーター コントロールの概要



H164_0026BCA
H164_0026BC

項目番号	コントロール	説明
1		トップ カバー
2		フィード トレイのふた
3	ドライヤー温度調節ノブ	回転して、ドライヤー内の空気の温度を調節します。
4	“Service”	サービス提供者に連絡する必要があるときに点灯します。
5	“High” ▲	デベロッパーの温度が設定温度よりも高温になったときに点灯します。
6	“Ready” ∪	デベロッパーの温度がフィルム処理に適切な温度になったときに点灯します。フィルムの処理中またはウォッシュ タンクに給水中の場合は、点滅します。
7	“Low” ▼	デベロッパーの温度が設定温度よりも低温になったときに点灯します。
8	[RUN]	処理サイクルを手動で開始し、一度だけ実行します。プロセッサーを ¢ 待機中 £ モードから解放します。
9	[DEV.]	デベロッパーの補充サイクルを手動で開始し、一度だけ補充します。
10	[FIX.]	フィクサーの補充サイクルを手動で開始し、一度だけ補充します。

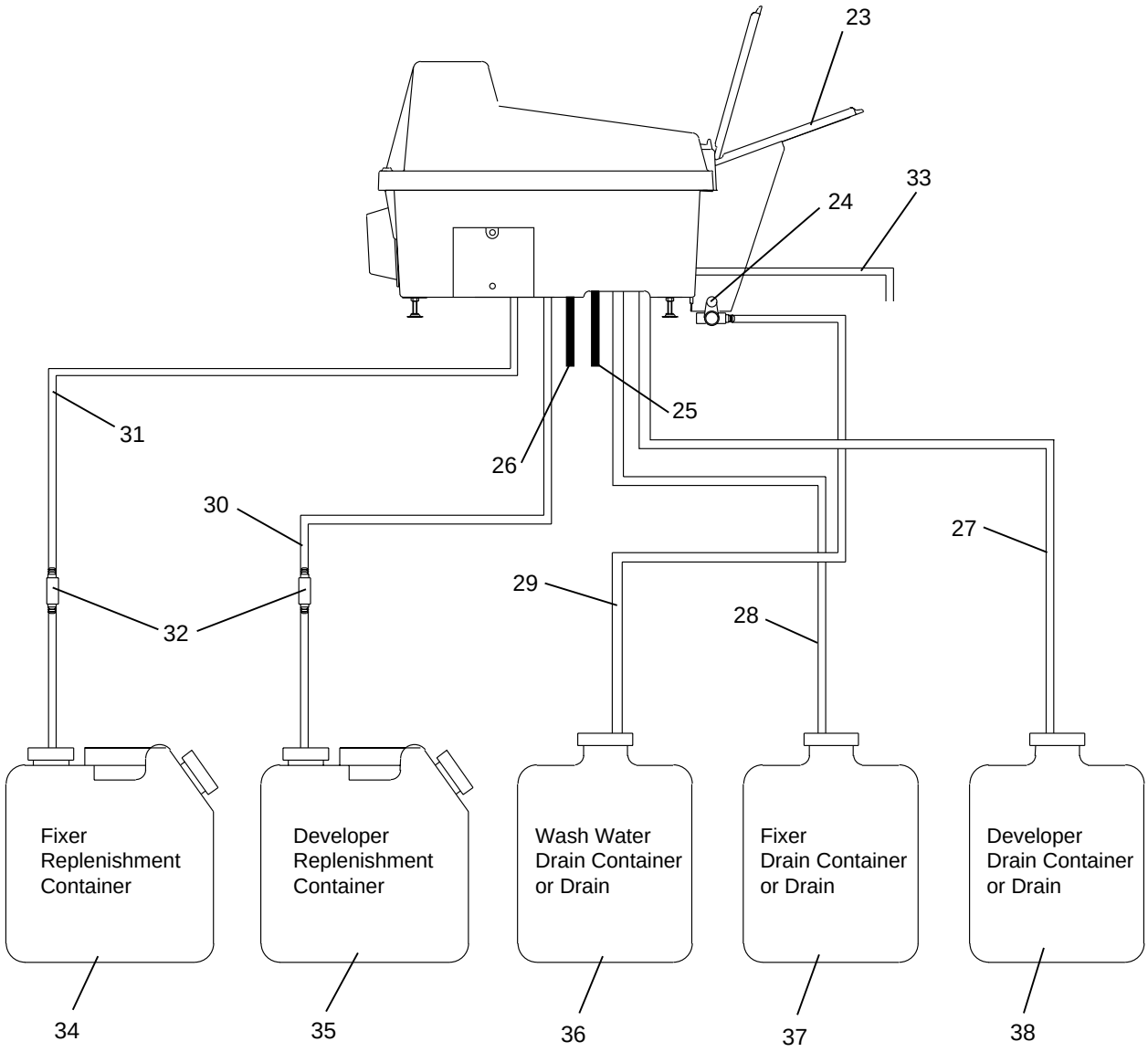
トップ カバーなしのプロセッサー



H164_0021DCA
H164_0021DC

項目番号	説明	項目番号	説明
11	エバポレーション カバー	**17**	ドライヤー ラック
12	デベロッパー ラック	**18**	ドライブ シャフト
13	ローラー	**19**	ドライブ ギヤ
14	クロスオーバー	**20**	“ 電源 ” スイッチ
15	フィクサー ラック	**21**	デベロッパー スタンド パイプ
16	ウォッシュ ラック	**22**	フィクサー スタンド パイプ

補充ホースとドレーン ホースが正しくコンテナに挿入されているプロセッサー



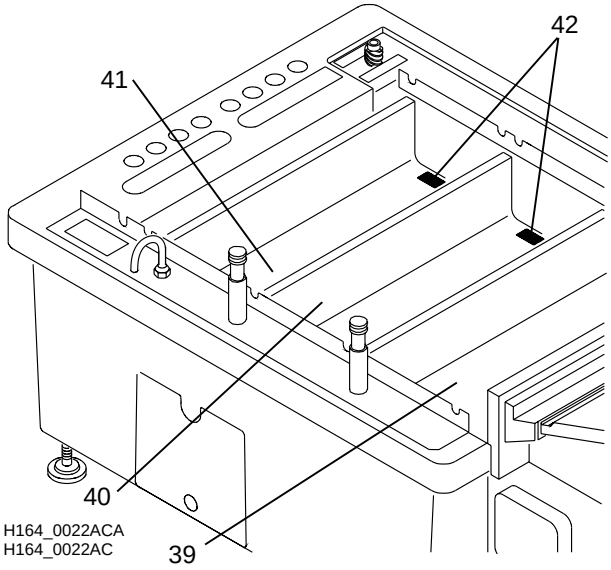
重要

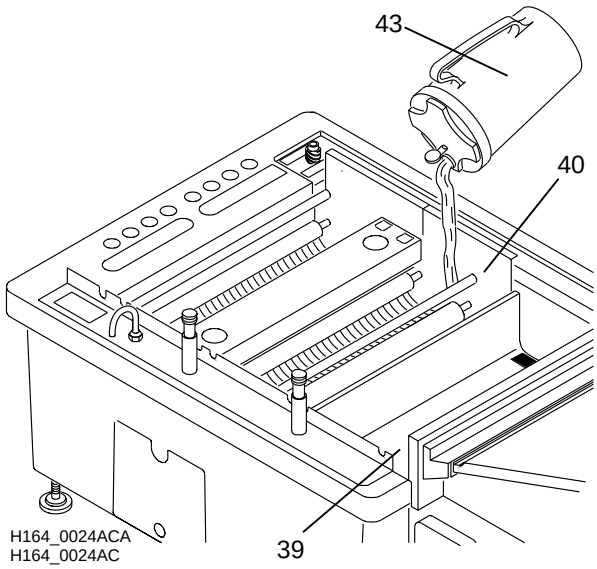
フィクサーとデベロッパーの補助ドレーン ホース **(25、26)** には、終端にキャップが付いています。キャップは、必ずサービス提供者が外します。お客様は、キャップを外さないでください。

項目番号	説明	項目番号	説明
23	フィード トレイ	**31**	フィクサー補充ホース
24	ウォッシュ ドレーン バルブ (赤)	**32**	補充フィルター
25	フィクサー補助ドレーン ホース (黒)	**33**	ウォッシュ供給ホース
26	デベロッパー補助ドレーン ホース (黒)	**34**	フィクサー補充コンテナ[a]
27	デベロッパーのオーバーフロー / ドレーン ホース	**35**	デベロッパー補充コンテナ
28	フィクサーのオーバーフロー / ドレーン ホース	**36**	ウォッシュ ドレーン コンテナ

項目番号	説明	項目番号	説明
29	ウォッシュ ドレーン ホース	**37**	フィクサー ドレーン コンテナ
30	デベロッパー補充ホース	**38**	デベロッパー ドレーン コンテナ

a. 補充コンテナ 2 個とドレーン コンテナ 3 個は、プロセッサーには含まれていません。





項目番号	説明
39	デベロッパー タンク
40	フィクサー タンク
41	ウォッシュ タンク
42	スクリーン フィルター
43	ピッチャー[a]

a. ピッチャーはプロセッサーには含まれていません。

第 2 節: 操作説明

日々のスタートアップ

警告

- ドレーン タンク **(36、37、38)** を使用する場合、ドレーン コンテナに十分な空があるか常に確認し、流れてくる溶液が溢れ出さないようにします。
- プロセッサーから床排水溝へ溶液を排水する場合は、排水溝が科学薬品に耐えられる、PVC またはそれに類似する非腐食性の材質で作られている必要があります。
- 床排水溝は、直径が 7.6 センチメートル (3 インチ) 以上で、閉塞しないものが必要です。
- 排水設備は、地域が指定するすべての規定に従う必要があります。
- 床排水溝とチューブを、密着して接続しないようにします。プロセッサーのチューブと床排水溝の側面との間には、最低 2.5 センチメートル (1 インチ) の隙間をとり、開放床排水にします。
- プロセッサーを 1 週間以上使用していない場合は、補充フィルター **(32)** を交換します。

[1] 補充コンテナ **(34、35)** とドレーン コンテナ **(36、37、38)** の溶液レベルを確認します。

(a) 補充コンテナのレベルが低い場合は、溶液を攪拌してコンテナに追加します。ページ 13 を参照してください。

(b) ドレーン コンテナがほぼ満水になった場合は、空のコンテナと交換してください。

[2] トップ カバー **(1)** を外すには、両手で前部と後部を押さえながら、トップ カバーをまっすぐに持ち上げます。

[3] プロセッサー内のデベロッパー タンクとフィクサー タンク **(39、40)** の溶液レベルを確認します (タンクについては、ページ 11 を参照してください)。

注意

たとえ少量の溶液でも、他の溶液に混入され溶液を汚染すると、レントゲンの現像結果が悪くなる要因になります。特にフィクサーがデベロッパーを汚染することは、実際にありうることです。汚染を防ぐために、ピッチャーやコンテナは、使用前と使用後によく洗っておきます。または、フィクサー用の器具とデベロッパー用の器具をそれぞれ別々に用意しておきます。

(a) フィクサーが少量になってきた場合は、フィクサー溶液がオーバーフロー / ドレーン ホース **(28)** から出てくるまで、フィクサー タンク **(40)** に追加します。

(b) デベロッパー タンク **(39)** の溶液レベルを確認し、必要なときは、デベロッパーを追加しておきます。

注

タンクに溶液を追加するには、2 つの方法があります ー ピッチャー **(43)** を使って適量を流し入れる方法と、オーバーフロー / ドレーン ホース **(27 または 28)** から出てくるまで、[DEV.] または [FIX.] **(9 or 10)** を押す方法です。

[4] トップ カバー **(1)** を閉じます。

[5] トップ カバーの四隅を押して、しっかりと閉まっているか確認します。

- トップ カバーがしっかりと閉まっていないと、プロセッサーに光が差し込んでフィルムにかぶりが生じ、ローラー **(13)** がフィルムを受け付けなくなります。

[6] “ 電源 ” スイッチ **(20)** の “|” を押して、プロセッサーを起動します。

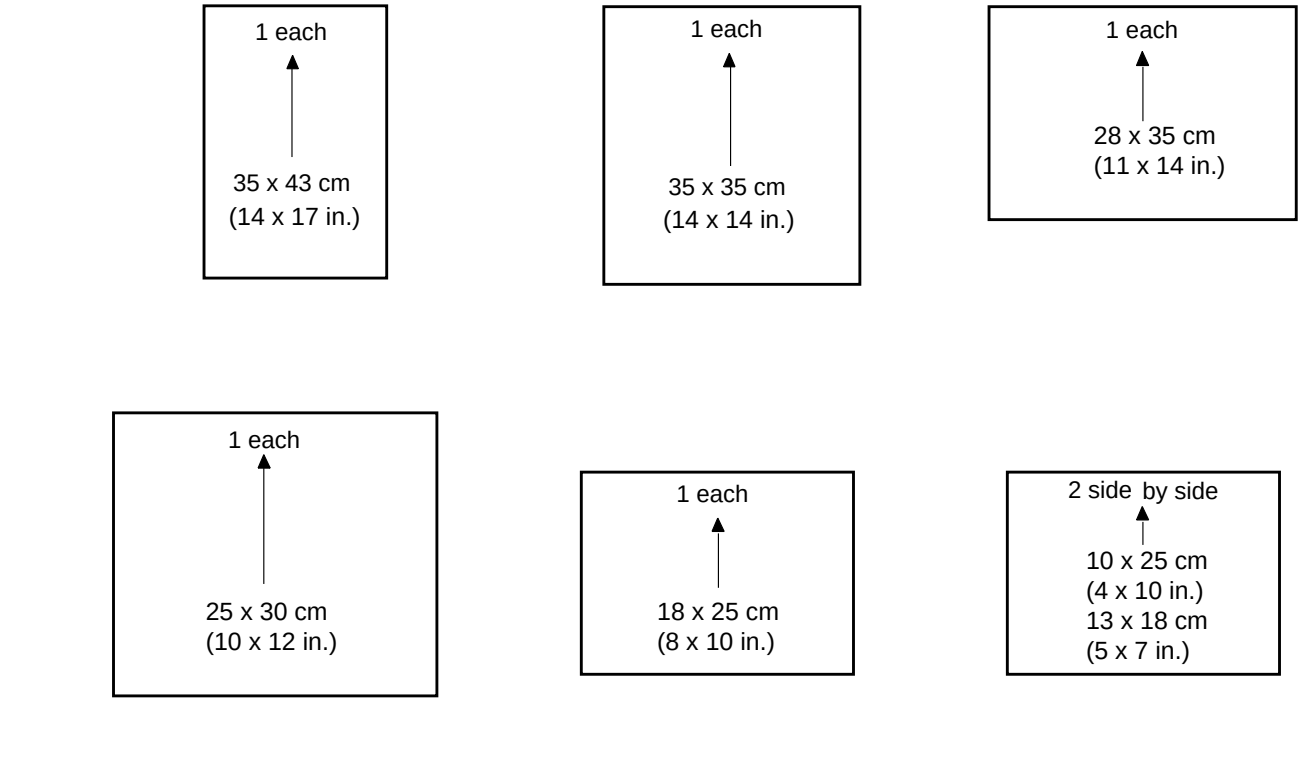
[7] プロセッサーへの給水を始めます。

注

“Ready” ライト ∪ **(6)** が点灯してブザーが鳴り、プロセッサーがフィルムを処理する準備ができたことを知らせます。

フィルム挿入手順

プロセッサーへのフィルムの挿入



H164_0019HC

重要

- フィード トレイ **(23)** の左側に沿って、ゆっくりとフィルムを挿入します。一度挿入したフィルムは、引っ張って戻したりしないでください。フィルムのふちについているデベロッパーがフィルムを湿らせてしまい、不均等にフィルムが現像されたり、フィルムが正しく運ばれない原因になります。
- フィード トレイ **(23)** の長さは、35 センチメートル (14 インチ) です。フィルムの長さが 35 センチメートル (14 インチ) 以上ある場合は、フィルムの終端がフィードの中に挿入されるまで、フィード トレイ **(2)** のふたを開いたままにしておきます。ブザーが鳴って、¢Ready£ が点灯したら、ふたをしっかりと閉じるか、まだ挿入するフィルムがある場合は、次のフィルムを挿入します。
- フィード トレイ **(2)** のふたをしっかりを閉じれば、室内の光を遮ることができます。フィード トレイのふたを閉じれば、すぐに室内の照明つけても大丈夫です。
- 最後のフィルムが処理されてから約 5 分後に、プロセッサーは自動的に ¢ 待機中 £ モードに転換し、電気を節約します。
  - – “ 待機中 ” モードの間、プロセッサーは、内部のさまざまなコンポーネントを実行して周期的にデベロッパーの温度を調節しています。
  - – ドライヤーの中では、ファンがゆっくりと回転しています。ドライヤーのヒート チェンバーを暖かく保つために、温度上昇状態になることがあります。
  - – プロセッサーが “ 待機中 ” モードの状態でフィルムを挿入する必要がある場合も、フィード トレイ **(23)** からフィルムを挿入します。センサーが、フィルムの挿入を検知して、プロセッサーを “ 待機中 ” モードから解放します。

[1] フィルム シートを処理する前に、次のことを確認します :

- “Ready” ∪ **(6)** が点灯しているが、点滅していない
- 室内の照明が消されている

[2] フィード トレイ **(2)** のふたを開いて、フィード トレイの中にフィルム シートを挿入します。フィルムを、フィード トレイ **(23)** の左側に揃えます。フィルムサイズによって挿入する向きが異なるので、上記の図 を参照してください。

[3] プロセッサーの中に、ゆっくりとフィルム シートを挿入します。フィルムが自動的に運ばれ始めたら、手を離します。

[4] フィルム シートのトレール エッジが、フィード トレイ **(23)** の内部に送り込まれたら、フィード トレイのふたをしっかり閉じます。

[5] “Ready” **(6)** は、挿入されたフィルムのトレール エッジがデベロッパー ラック **(12)** に入って行くまで点滅を続けます。¢Ready£ が点滅を止め、ブザーが鳴ったら、次のフィルム シートを挿入できます。

[6] ドライヤー温度調節ノブ **(3)** を調節して、最低温度に設定し、フィルムを乾燥します。

日々のプロセッサー シャットダウン

注

プロセッサーを 1 週間以上シャットダウンする場合は、ページ 10 の手順に従います。

[1] ウォッシュ ドレーン コンテナ **(36)** を持つプロセッサーの場合は、その中の溶液のレベルを確認します。最低でも 3.8 リットル分の空きが必要です。空きが足りない場合は、コンテナを空にするか、新しいコンテナに交換します。

[2] プロセッサーへの給水を止めます。

[3] “ 電源 ” スイッチ **(20)** の “O” を押して、プロセッサーの電源をオフにします。暗室の壁に備え付けてある主電源ブレーカーで、主要電源をオフにしたり、プロセッサーの電源プラグを抜くことは、絶対にしないでください。

注

プロセッサー後部のファンは、常に回転し続けます。

[4] トップ カバー **(1)** を取り除くには、両手で前部と後部を押さえながら、トップ カバーをまっすぐに持ち上げます。

[5] 2 つのクロスオーバー **(14)** を取り除きます。

[6] クロスオーバーを水で洗浄し、乾燥させます。

[7] クロスオーバーを正しい位置に設置し、クロスオーバー上の “D”、“F”、“W” **(14)** と、ラック上の “D”、“F”、“W” **(12、15、16)** が一致するようにします。

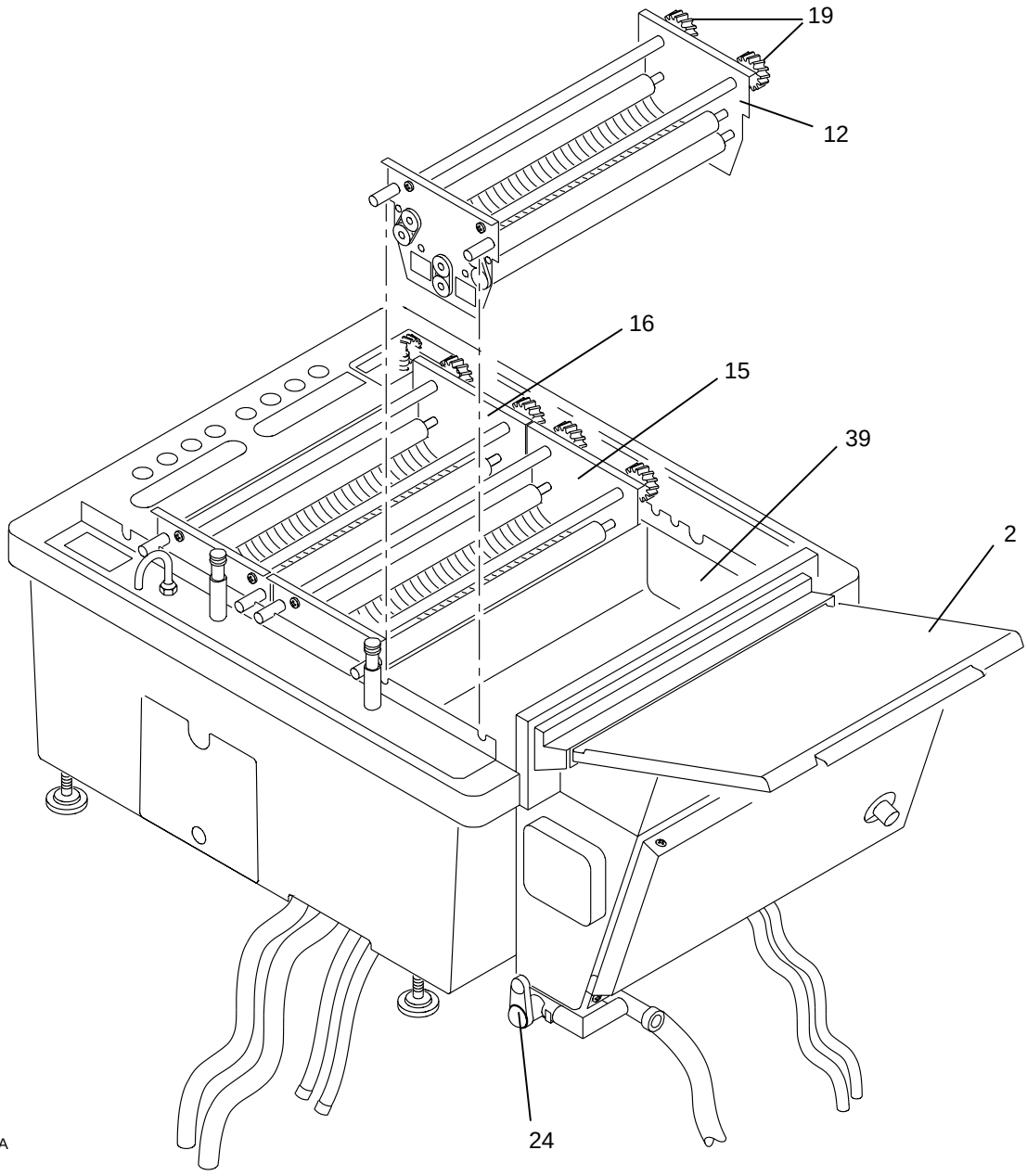
[8] クロスオーバー **(14)** の角を押して、しっかりと固定されたことを確認します。

[9] トップ カバー **(1)** を閉じます。

[10] 暗室の空調ファンをオフにしないでください。暗室にファンが無い場合は、暗室のドアを開けたままにしておきます。

薬品交換時のタンクからの液体の抜き取りと洗浄、および1 週間以上プロセッサーを保管する方法

ラックの持ち上げ



H164_0096DCA
H164_0096DC

[1]「電源」スイッチ **(20)** の「O」を押して、プロセッサーの電源を切ります。

[2] 暗室の壁にある主電源ブレーカーを切るか、あるいはプロセッサーのプラグをコンセントから抜きます。

[3] プロセッサーへの給水を止めます。

[4] ドレーン コンテナ **(36、37、38)** の容量が抜き取る希釈溶液量に十分であり、溢れ出さないことを確認します。

[5] デベロッパー スタンド パイプ **(21)** とフィクサー スタンド パイプ **(22)** を外し、デベロッパーとフィクサーの希釈溶液をプロセッサーのタンク内から抜き取ります。

[6] ウォッシュ ドレーン バルブを開き **(24)**、ウォッシュ タンク **(41)** から液体を抜き取ります。

[7] 両手で前後を持ってまっすぐ上に持ち上げ、トップ カバー **(1)** を外します。

[8] デベロッパーのエバポレーション カバー **(11)**、クロスオーバー **(14)**、およびラック **(12、15、16)** を外し、水で洗い流します。

[9] デベロッパーとフィクサー スタンド パイプ **(21、22)** を取り付けます。

[10] 補充ホース **(30、31)** を補充コンテナ **(34、35)** から外します。補充コンテナを空にし、水で洗い流します。

[11] 補充コンテナに水を入れ、補充ホースの端をコンテナに差し込みます。

[12] デベロッパーとフィクサーのオーバーフロー / ドレーン ホース **(27, 28)** をウォッシュ ドレーン コンテナ **(36)** につなげるか、床の排水口に取り付けます (地方自治体の法則に沿っている場合)。

[13] ピッチャー **(43)** を使って、4 リットルの水をプロセッサーのデベロッパーとフィクサー タンク **(39、40)** に注ぎ込みます。

[14] 暗室の壁の主電源ブレーカーの電源を入れるかプロセッサーのプラグをコンセントに差し込みます。

[15]「電源」スイッチ **(20)** の「|」を押します。これで水が数分間循環されます。

[16] 少なくとも 3 回、[DEV.] **(9)** を押します。それから [FIX.] **(10)** を少なくとも 3 回押します。

[17]「電源」スイッチ **(20)** の「O」を押します。

[18] デベロッパーとフィクサー スタンド パイプ **(21、22)** を外し、プロセッサーのタンクから水を抜きます。

[19] 手順 13 - 18 を 2 ～ 3 回繰り返し、プロセッサーの再循環システムを洗い流します。

[20] デベロッパーとフィクサー タンクを洗い流した水がきれいになったら、「電源」スイッチ **(20)** の「O」を押します。

[21] 水を抜き取っている間に、傷がつかないスポンジまたはごみの残らない布でデベロッパーとフィクサー タンク **(39、40)** の壁面からクリスタル沈殿物を取り除いてください。

注

ラックとタンクからデベロッパーのしみを完全に取り除こうとしないでください。これは正常なものです。

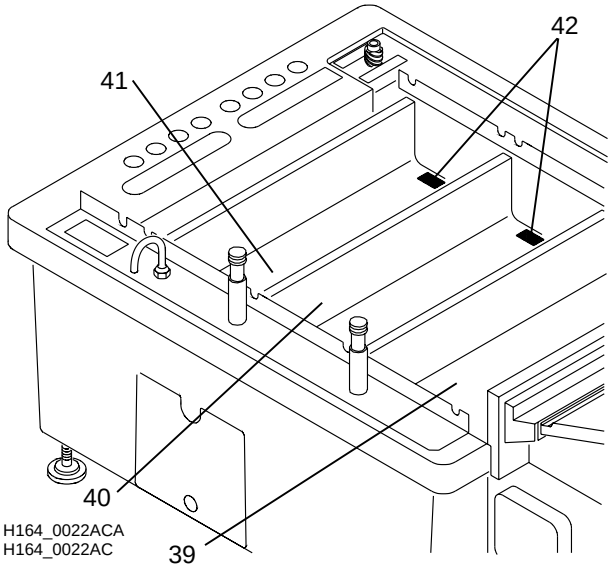
[22] 2 枚のスクリーン フィルター **(42)** を確認します。

(a) フィルターが詰まっている場合は、歯ブラシでフィルターを擦ります。

(b) フィルターを水で洗い流します。

(c) フィルターをタンクの元の場所に戻します。

タンクとスクリーン フィルターの洗浄



[23] タンクを洗い流し、ごみの残らない布で拭き取ります。汚染を避けるために、まずデベロッパー タンク **(39)**、次にフィクサー タンク **(40)**、そして最後にウォッシュ タンク **(41)** の順に拭き取ります。

[24] ラック **(12、15、16)** とクロスオーバー **(14)** を取り付けます。クロスオーバーの四隅を押して、完全に固定されていることを確認します。

[25] エバポレーション カバー **(11)** をデベロッパー ラック **(12)** に取り付けます。

(a) まず、ドライブ ギヤ **(19)** の隣のエバポレーション カバーの端を挿入します。

(b) もう 1 つの端を挿入して、押し込みます。

[26] トップ カバー **(1)** を閉じます。

[27] プロセッサーを 1 週間以上使用しない場合は、タンクを空にし、トップ カバーを閉じ、プロセッサーをコンセントから外しておきます。薬品を交換する場合は、次の項をご覧ください。

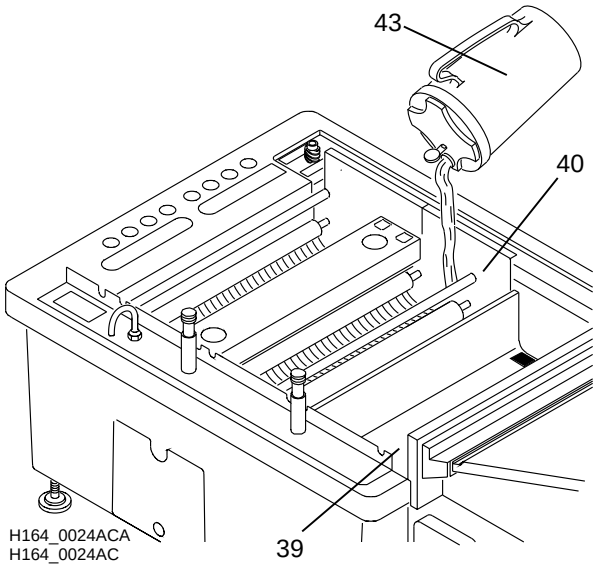
第 3 節: 補充希釈溶液

デベロッパーとフィクサー補充液の攪拌

KODAK RP X-OMAT デベロッパーと補充液、および KODAK RP X-OMAT LO フィクサーと補充液を使います。これらを混ぜて化学溶液を汚染することは避けてください。使用するたびに、ピッチャー **(43)** を洗浄します。補充液に同封されている手順に従って攪拌します。1000 プロセッサーは出荷される前に、フラッド モードに設定されています。プロセッサーのモードが変更されていない限り、KODAK RP X-OMAT デベロッパー スターターを 1 ガロンに対し 3 液体オンス、あるいは 3.8 リットルに対し 90 ミリリットルの割合で、デベロッパー補充コンテナ **(35)** に加える必要があります。プロセッサーがフラッドあるいは通常モードに設定されているか確かでない場合は、サービス提供者に問い合わせてください。

プロセッサーのタンクの補充

タンクの補充



[1] 「電源」スイッチ **(20)** の「O」を押して、プロセッサーの電源を切ります。

[2] 暗室の壁にある主電源ブレーカーを切るか、プロセッサーのプラグをコンセントから抜きます。

[3] プロセッサーへの給水を止めます。

[4] デベロッパーとフィクサー スタンド パイプ **(21、22)** がタンク **(39、40)** に固定されていることを確認します。

[5] エバポレーション カバー **(11)**、「D」と「F」と記載されたクロスオーバー **(14)**、およびデベロッパー ラック **(12)** を外します。

[6] ピッチャー **(43)** を洗い流します。

[7] 上記で攪拌されたフィクサー溶液 3.8 リットルをピッチャー **(43)** に注ぎ込みます。それから、フィクサー ラック **(15)** が取り付けられていることを確認し、静かに溶液をフィクサー タンク **(40)** に注ぎ込みます。

重要

空のデベロッパー タンクから飛び散ったフィクサーを拭き取り、デベロッパーの汚染を避けてください。使用するたびにピッチャーを洗浄します。

[8] ピッチャー **(43)** を水道水で十分に洗浄します。

[9] デベロッパー タンク **(39)** を濡れたタオルで拭き取ります。

[10] デベロッパー タンク **(12)** を取り付けます。

[11] 上記で攪拌されたフィクサー溶液 3.8 リットルをピッチャーに注ぎ込みます。スターターがデベロッパー補充コンテナ **(35)** に加えられていない場合は、3 液体オンス (90 ミリリットル) のスターターをピッチャー **(43)** に加えます。

[12] デベロッパー溶液を静かにデベロッパー タンク **(39)** に注ぎ込みます。

[13] 次のものを取り付けます。

- エバポレーション カバー
- クロスオーバー
- プロセッサーのトップ カバー

[14] デベロッパー、フィクサー、およびウォッシュ オーバーフロー / ドレーン ホース **(27、28、29)** を正しいドレーン コンテナ **(38、37、36)** に挿入します。

- ホースを必要以上に長く挿入しないでください。
- ホースを折り曲げないでください。

[15] 壁にある主電源ブレーカーの電源を入れるか、プロセッサーのプラグをコンセントに入れます。

[16]「電源」スイッチ **(20)** の「|」を押します。

[17] プロセッサーの給水を始めます。

[18] ウォッシュ ドレーン バルブ **(24)** を閉じ、ウォッシュ タンク **(41)** を水で満たすか、ウォッシュ タンクが自動的に満水になるのを待ちます。

第 4 節: 事故防止保守

重要

プロセッサーに問題がないように、以下の内容に従って定期的に保守を行います。

日々の保守

[1] 作業日の 始め に、いつも ページ 7 の「日々のスタートアップ」を行います。

[2] 作業日の 終わり に、いつも ページ 9 の「日々のプロセッサー シャットダウン」を行います。

週ごとの保守

注意

フィクサー ラックを **(15)** 取り付けたり外したりする時に、フィクサー薬品をデベロッパー タンク **(39)** にこぼさないように注意してください。ラックやタンクからデベロッパーのしみを完全に取り除こうとしないでください。

[1] 2 枚クロスオーバー **(14)** と、3 本のラック **(12、15、16)** を外し、汚れを濡れたタオルで落としながら水で洗い流します。

- **(a)** 柔らかいスポンジやごみの残らない布で、ドライブ ギヤ **(19)** についたクリスタルを取り除きます。
- **(b)** 手でドライブ ギヤを回転させ、それぞれのローラー **(13)** が滑らかに回転することを確認します。
- **(c)** ローラーに破損がないことを確認します。
- **(d)** ウォッシュ ラック **(16)** に生物の発生などがないか確認します。必要な場合はラックを水でよく洗い流し、柔らかいスポンジやごみの残らない布でよごれを落とします。

[2] トップ カバー **(1)** を濡れたタオルで拭き取ります。

[3] デベロッパーがフィード トレイ **(23)** にこぼれていないか確認します。こぼれている場合は、拭き取ります。

[4] フィード トレイ **(23)** を乾いたごみの残らない布で拭き取ります。

月ごとの保守

毎日、毎週の保守に加えて、以下の手順を月に最低 1 回行います。

[1] プロセッサーの電源を抜き、タンクから液体を抜き取ります。

[2] 柔らかい傷のつかないスポンジあるいはごみの残らない布で、3 本のラック **(12、15、16)** をきれいにします。ゴムのローラーを傷つけないよう注意してください。

[3] すべてのローラー **(13)** が滑らかに回転することを確認します。

[4] それぞれのタンクに溶液からのクリスタル沈殿物がないか確認します。クリスタルが残っている場合は、濡れたタオルでよごれを浮かし拭き取ります。

[5] 2 枚の新しい補充フィルター **(32)** を取り付けます。

[6] 生物の発生がプロセッサーのウォッシュ タンク **(41)** にある場合は、次の手順に従います。

- **(a)** ウォッシュ ドレーン ホース **(29)** の端を差し込みます。
- **(b)** 5.5 リットル (1.5 ガロン) の水に、液体漂白剤 90 ミリリットル (3 液体オンス) のマイルド溶液を混ぜます。
- **(c)** ウォッシュ タンク **(41)** を漂白溶液がウォッシュ ドレーン ホース **(29)** から溢れ出すまで満たします。
- **(d)** 漂白溶液をウォッシュ タンクに 15 ～ 20 分入れたままにしておきます。
- **(e)** ウォッシュ ドレーン ホースを抜きます。
- **(f)** ウォッシュ タンクの漂白溶液が空になったら、ウォッシュ タンクを 3 回水で洗い流します。

[7] 新しい薬品の攪拌については、13 ページの「デベロッパーとフィクサー補充液の攪拌」を参照してください。

注

フィルムのイメージの質が期待通りの場合は、溶液を 1 ヶ月以上使用できます。

[8] ラック **(12、15、16)** を取り付けます。

[9] クロスオーバー **(14)** を取り付けます。

(a) 赤い「D」、青の「F」および白い「W」をラックに記載されている文字と合わせます。

(b) クロスオーバーの右と左端を押して、正しくはめ込まれていることを確認します。

[10] ラックのドライブ ギヤ **(19)** を回転し、ドライブ シャフト **(18)** とかみ合わせます。

[11] デベロッパーとフィクサー タンク **(39、40)** を溶液で満たします。13 ページの「プロセッサーのタンクの補充」を参照してください。

トラブルシュート

プロセッサーに問題がある場合は、以下の可能性のある原因の一覧を参照してください。

注

問題がここで記載されている解決法で解決できない場合は、サービス提供者に問い合わせてください。

問題	問題の解析	解決方法
フィルムが傾いている	• フィルムが正しく挿入されていない。 • ローラーを締め付けるスプリングが外れている。	• フィルムをフィーダー トレイの左側に合わせて挿入する。 • スプリングを正しく取り付ける。
フィルムが詰まる	• フィルムがローラーの間に挿入されない。 • プロセッサーにクロスオーバーが取り付けられていない。 • ドライヤー ラックのエアー チューブが外れている。 • トップ カバーがずれている。	• ローラーを締め付けるスプリングが外れていないか確認する。取り付ける。 • クロスオーバーを取り付ける。 • サービス提供者に問い合わせる。 • トップ カバーを正しく取り付ける。
フィルムの表面のひっかき傷あるいは汚れ：		
1. フィルムの移動する方向に沿った線状のひっかき傷あるいは汚れ	ローラーが傷をつけているか汚している。	• 黒い汚れの場合は、確認後フィルム パスに沿ってローラー内のパーツの汚れを静かに取り除く。 • 白い汚れの場合は、KODAK Roller Transport Cleanup Film CAT No. 166 2303 を使ってデベロッパー ラック内のローラーのよごれを静かに取り除く。
2. フィルムの移動する方向に沿った 63 ミリ間隔の汚れ	ローラーにひびがはいっているか汚れている。	• 黒い汚れの場合は、確認後デベロッパー ラック内のローラーの汚れを静かに取り除く。 • 白い汚れの場合は、確認後フィクサーとドライヤー内のローラーの汚れを静かに取り除く。
3. 不規則なひっかき傷あるいは汚れ	フィード トレイが汚れている。	フィード トレイの汚れを取り除く。

問題	問題の解析	解決方法
くもり	• デベロッパーが汚染されている。 • トップ カバーが正しく取り付けられていない。 • 部屋が明るすぎる。 • プロセッサーからのフェルトあるいは泡。	• プロセッサーからデベロッパーを取り除き、ページ 10 に記載されているデベロッパー タンク用の手順に従って清掃する。 • トップ カバーが完全に閉じるかどうか確認する。 • 部屋の照明を暗くする。 • サービス提供者に問い合わせる。
フィルムが挿入できない	• フィルムがフィード トレイの湿気でくっついてしまう。 • トップ カバーが正しく取り付けられていない。	• フィード トレイの汚れを取り除き、乾燥させる。正しいフィルムの挿入については ページ 8 を参照してください。 • トップ カバーを正しく取り付ける。
ベース濃度が濃すぎる	• フィクサーがデベロッパーと混ぜられてしまっている。 • デベロッパーが劣化している。	• プロセッサーからデベロッパーを抜き取り、ページ 10 に記載されているデベロッパー タンク用の手順に従って清掃する。 • 新しいデベロッパーを混ぜる。
ベース濃度が低すぎ現像が適切でない	• 補充液量が十分でない。 • 薬品が劣化している。 • デベロッパーの温度が低すぎる。	• 補充タンクの補充溶液の量を確認する。ホースが折り曲げられていないか確認する。 • 薬品を交換する。 • サービス提供者に問い合わせる。
定着が適切で透明度が低い	• 補充液量が十分でない。 • フィクサーが劣化している。	• 現在の補充液量を確認する。 • 薬品を交換する。
洗浄が不適切でフィルムの表面に白い沈殿物が残る	• ウォッシュ タンクが満たされていない。	• プロセッサーから注がれる水の流れを調整する。 • デベロッパーとフィクサー スタンド パイプが正しく固定されているかどうか確認する。
不適切な乾燥	• 現在の温度が正しくない。 • ドライヤー ラック内のエアー チューブが外れている。	• ドライヤー温度調節ノブを調整する。 • サービス提供者に問い合わせる。
タンクの溶液が流れない	再循環ポンプに空気がたまっている。	ドレーン バルブを開き、少量の 溶液を流し出します。溶液が流れ出さない場合には、もう一度、繰り返します。何度繰り返しても流れ出さない場合は、サービス提供者に問い合わせてください。

第 5 節: 保証 (米国のみ)

一般

Kodak はこの KODAK X-OMAT 1000、1000A あるいは 1000J プロセッサーが出荷されて 1 年以内に取り付けられたその最初の日から 1 年間、正しく機能することを保証します。

修理の保証

この装置が保証期間内に正しく機能しない場合は、装置を販売した KODAK X-OMAT プロセッサーのディーラーがディーラーの通常の営業時間内に修理をするか、修理の手配をします。そのような修理サービスには装置が正常に機能するために必要なパーツの調整および / あるいは交換が含まれます。

サービスの入手方法

万一装置に修理が必要になった場合は、サービスの問い合わせを誰にしたらよいかについて販売契約書を参照するか、装置を販売した KODAK X-OMAT プロセッサー ディーラーに問い合わせてください。

制限

サービスの保証は、米国の隣接する各州、ハワイのオアフ島、およびアラスカの一部の地域に限られます。

この保証には以下の項目は含まれません : Kodak の管理範囲を超えた状況、誤用、乱用、Kodak により市販されていない付属品、補助品、あるいは改修 (そのような付属品、補助品、あるいは改修の使用の結果起こった問題を修正するためのサービスあるいは部品も含みます)、Kodak の操作マニュアルに従わない場合の損害、あるいは消耗品。

Kodak はこの装置の商業性に関して明示的あるいは暗示的なその他の保証はいたしません。

この保証では、無料の修理に関しては Kodak とそのディーラーのみに拘束力があります。

- Kodak はこの装置の販売、使用、あるいは不適切な機能による結果的あるいは偶発的な損害に関して、その損害が Kodak の過失その他の誤りに起因する場合でも、責任を負いません。
- Kodak が責任を負わない損害には以下のものが含まれますが、それらに限ったものではありません : 収益の損失、故障中の経費、装置使用不可による損失、代わりの装置、設備、あるいはそのような損失で発生するお客様の顧客からのサービスあるいは損害請求にかかる費用。

この責任の制限は、Kodak あるいはその支配下にある個人による過失あるいは誤りのみに起因する人身事故や所有物の損失に対する損害請求には適用されません。

出版履歴

印刷日	出版番号	ECO 番号	適用されるページ	ファイル名	注記
1997 年 7 月	9B8942	2504-470	すべてのページ	om3482_1_470.doc	初版
1997 年 11 月	9B8942	2504-475	すべてのページ	om3482_1_475.doc	マイナーな更新と 6 言語への翻訳
2002 年 9 月	9B8942	98012	すべてのページ	om3482_1_475.fm	サポート情報の更新 : • シリアル番号 483 とそれ以上の 1000 • シリアル番号 1243 とそれ以上の 1000A

Kodak および *X-Omat* は商標です。

Printed in U.S.A. • om3482_1_475.fm

EASTMAN KODAK COMPANY
Rochester, NY 14650

ヘルス イメージ